

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170101186		
法人名	医療法人社団 内科小児科山脇医院		
事業所名	グループホームふたば(1Fまんようの家)		
所在地	鳥取市国府町稲葉丘3丁目303		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和6年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・思いやり・まごころ・親切の運営理念のもと、優しく接し、丁寧に支援し、親身になって対応することを心がけている。 ・入居者の健康及び体調管理について随時、訪問看護師及びかかりつけ医と連携し対応している。 ・感染症対策を行いながらもできる限り家族の面会に対応している。 ・町内会の防災訓練に参加し、緊急時においても町内からの支援がある。 ・運営推進会議のメンバーが多方面、他領域で構成されている。 ・概ね月に一度は季節にちなんだ行事を実施している。 ・年に一度セルフチェックシートを活用し職員のサービスの質を一定にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>訪問日は、暖かい春の陽差しがそそがれ、施設の玄関先では色とりどりの花が出迎えてくれ、散歩中の利用者が微笑ましく眺めている様子もうかがえました。外部評価の面談時には、法人代表の理事長も同席いただき、職員への思いや、利用者への接し方などもお聞きし、意識の高さと、信頼関係の厚さを感じ取ることができました。職員はみな事業所の理念を常に念頭に置き、利用者に敬意を払い、利用者本位のサービスの提供に努められていることが、利用者の方々の明るい笑顔からも感じられました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎日朝礼時に唱和を行い、実践に繋がられるよう心掛けている。	法人の理念に加え、グループホーム独自の運営理念、そして年度の目標も掲げ、高い意識を持って実践している。	みなさんがとても大切にされている理念です。もっと目に付くところに掲示されてはいかがでしょうか。グループホームでは、地域密着の意義を踏まえたものも大切だと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事の公園清掃、防災訓練に参加し、町内の一員として交流を図っている。又、運営推進会議にはボランティアグループ、町内会長にも参加をお願いしている。	町内会に加入し、日常的に交流を行っている。コロナ以降、直接的な交流は控えているが、職員が清掃や防災訓練に参加するなど、つながりが途絶えることのないように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の研修を受け入れ、認知症の理解や支援について学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、多方面の委員の方々の参加の下、報告、意見交換、提言を頂いている。	運営推進会議は、15名の様々な分野の方々に構成され、2ヶ月に一度開催されている。入所時のペットのこと、防災についてなど、活発に意見が出され、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	国府総合支所地域振興課長、市民福祉課長が運営推進会議の委員であり、会議を通じて協力関係を築いている。	運営推進会議の委員として参加してもらうほかにも、介護保険の更新や新しい制度等について、日常的に連絡を取り合い、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないを基本とし、止むを得ず行わざるを得ない時も、手順を踏み個人の判断で行わないようにしている。毎月身体的拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束をしないケアの具体的な行為について、スタッフ会議や研修会で常に確認を行っている。玄関の施錠は行わず、外に出ようとする人があれば寄り添い、見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修を定期的に行い、虐待が起これない環境作りと虐待に至らないように技術の向上やストレス軽減に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利擁護について現在十分に理解ができていない。研修の機会を作り理解の向上を図りたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と実際にお会いし、書面と口頭で説明を行っている。不明な点があれば随時受け付ける旨を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回ご意見についての書類を送付し、意見を伺っている。また面会等顔を合わせる時にも意見を窺っている。	家族の方には「ふたばへのご意見」という用紙を送付し、積極的に聞き取る姿勢を取っている。聞き取り方も工夫され、お礼のメッセージが書かれたリターンがたくさん寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の業務改善委員会に職員の意見を聞く機会を設けている。又随時相談に対応している。	日頃から気づいたことがあればすぐに相談できる関係が築かれている。代表者は、職員の小さな声にも耳を傾け、誰もが気持ちよく働くことができる環境を提供するように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	セルフチェックシートを活用し職員の状況把握に努めている。又、適宜面談を行い、働きやすい環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回のスタッフ研修と外部研修の情報提供を行い、学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の情報提供を行い、交流できる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談し意向の確認や、不安に思っている事を尋ね、解消に向かって職員で情報を共有し支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談し、不安な事、これからの事を伺い対応と助言を行って関係作りに努めている。体調についても医療と連携し、家族と連絡を取り合うことで信頼を深められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者主体を基本としながら、専門職としての助言を行い本人に適したサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と一緒に生活活動を行うことで、共に過ごす一員として関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が行える支援を提案し、職員も家族をサポートすることで家族も、支援を行う一員として関係を続けられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所で知っているところや、以前働いていたところまで散歩し、昔の記憶を思い出していただく支援を行っている。	入所時に聞き取った、利用者の生活歴等を把握し、それまでの関係を継続できるような支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮して、関係が作られるよう職員が中に入り支援を行っている。又、その際にも本人の意向を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ない事情で退去となる場合でもこれからの事を話し相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最初の面談や普段の表情、行動、言動で本人の意向や希望を把握し、職員で共有し支援に取り組んでいる。	言葉だけでなく、ちょっとした表情や行動、反応を細かくチェックし、思いや意向の把握に努めている。入所前の生活歴についても、家族や他のサービス事業者からもしっかり聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者を一人ひとりについても、日常の情報収集に努めている。職員同士で意見交換することできめ細かな現状を把握し、支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師、担当者、職員から意見を募り、介護計画に反映している。それぞれの視点で意見を交換し、より適した支援につながるよう努めている。	介護計画は、医師や看護師と共に、医療的な視点も踏まえて作成されている。3ヶ月に一度見直しを行っているが、利用者の状態に合わせ、その都度話し合いが持たれている。家族への報告も細かく行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報に状態や様子、嗜好を記入することで現状把握、情報共有が行えている。共有することで様々な視点から意見が出ており、支援の質向上ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況と家族の状況に合わせた提案を行い、外部への受診の為にサービス利用等取り組んでいる。又、本人に適したサービスの提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や多職種から情報を募り、本人の利益につながる事ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際本人又は家族にかかりつけ医を伺い、受診の支援を行っている。体調変化の際はかかりつけ医から情報を受け、外部受診への支援を行っている。	基本的に本人や家族の希望するかかりつけ医に受診することができるが、関連施設の山脇医院の往診を受けることができ、喜ばれている。家族への報告もその都度行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での気づきを看護師と共有し意見や助言を頂いている。又、受診に向けた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、随時の問い合わせにも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化について説明している。体調が増悪傾向の場合は家族、医療と連携をとりこれからの支援の在り方を相談し、家族の意向を踏まえながら本人に適した支援を提供している。	医療機関と連携を取りながら終末期に向けた支援が行われている。職員への研修やマニュアルの作成も行われており、動揺することなく対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会の中で緊急時対応を含めた事故対応の話し合いを行い、職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火防災避難訓練の際、様々な災害に対応すべく垂直避難訓練を行っている。	年に2回、夜間や、垂直避難を想定した訓練が行われている。併設されている老健の訓練にも参加し、協力体制が築かれている。現在備蓄の準備が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは一人ひとりの高齢の方として接し、その方の尊厳が保たれるよう気を付けている。又、プライバシーに配慮し周囲に失敗が伝わらないように努めている。	言葉遣いだけでなく、声のトーンやスピードにも配慮し、利用者一人ひとりに敬意を持って接している。何か失敗されるようなことがある時は、周りに気づかれないよう、特に注意して声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせたコミュニケーション方法を行い、本人主体の選択が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況に合った生活ペースを大切にし、できる限り食事の時間や入浴時間を本人にあわせている。難しい場合でも別の提案を行い、出来る限りその人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に直接聞くことで本人主体の身だしなみができている。本人が行えない時は、家族から聞く、以前の生活状況か推測して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが行える事を行い、職員と共同で力を発揮してもらっている。メニューを見ることで食への楽しみを持っていただいている。	洗い物や盛りつけなど、できることを利用者と一緒に楽しみながら行っている。メニューは前もって決めるのではなく、家庭と同じように、冷蔵庫の中身を見て、利用者と共にその日に決めている。訪問日は季節感たっぷりの草の花のおひたしをいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、看護師、他施設の管理栄養士と連携し、本人の好みに合わせながら栄養や水分、形状を考え食事の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、本人の状態に合わせた介助量で行っている。又異常がみられる時は、看護師と家族に相談し受診の提案をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄を行っている。一人では困難な場合は二人対応を行うなどし、トイレでの排泄維持を行っている。	おむつ→リハビリパンツ、リハビリパンツ→布パンツ、というように徐々に自立に向かった支援が行われている。一人ひとりの排泄パターンも把握し、トイレでの排泄が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携し、食や運動で便秘改善を図っている。それでも難しい場合は下剤、浣腸を看護師と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安としての入浴日、入浴時間は決めているが出来る限り本人の希望に沿った入浴をしている。気分が乗らない時など時間、曜日をずらし柔軟に対応している。	基本的に、利用者の希望に沿った時間、回数、回数の支援が行われている。同性介助の要望にも対応し、入浴を希望されない方には、声かけの仕方を工夫したり、タイミングを見ながら、無理のない支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡、就寝は本人の表情や行動、これまでの生活習慣を考慮し、声掛けを行っている。就寝場所も温度や明るさ、静かさ等を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と連携し処方箋に何の薬か説明を書いて頂いている。それをカルテに移すことで職員の確認が容易になり、変化に対応できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合わせたレクリエーションを提供している。利用者同士の交流が深まるように職員も中に入っている。散歩は体調や天候に配慮しながらできるだけ毎日行えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為、以前の様な外出は控えている。しかし、スタッフとの散歩は可能な限り以前と同様くらい努力し継続している。	天気や利用者の身体の状態を見ながら、施設の周りの散歩を日常的に行っている。コロナ感染防止のため、人混みへの外出は控えられるが、近くにお花見がてら散歩する計画も立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、金銭は預かっていない。チラシを見て金銭感覚向上の会話を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたら電話の支援を行っている。できそうな方には手紙やはがきの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を行っている。入居者の動線や気分的な配慮を行い、感染対策を考慮した生活空間づくりに努めている。	共用空間は明るい陽射しが差し込み、快適な温度と清潔な空間が保たれている。壁には、季節の飾りだけでなく、利用者が書かれた今年の目標や、作品が飾られ、居心地の良く過ごせる工夫が随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の個室はいつでも入ってもらえる。また、食堂とは別に畳の間もあり、気の合った方同士だけの利用もできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して持ち込んでもらっている。認知症高齢者の無くしてしまうリスク、壊してしまうリスクを説明し納得の上持ち込んで頂いている。	居室には、それぞれ思い思いの物が持ち込まれ、安心して過ごすことできるように配慮されている。どの部屋も清潔に保たれ、快適に過ごされているのが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示、温泉のれんを使用してわかりやすくしている。		